

予 算 要 求 資 料

令和8年度9月補正予算

支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：特定疾患対策費

事業名【新】難病等医療費助成システム改修事業費（先血MN連携）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

健康福祉部 保健医療課 難病対策係 電話番号：058-272-1111(内3320)

E-mail：c11223@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 2,013 千円 （現計予算額： 0 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	2,013	0	0	0	0	0	0	0	2,013
決定額									

2 要 求 内 容

（１）要求の趣旨（現状と課題）

先天性血液凝固因子障害治療研究事業の申請にあたり、申請書への添付が必要とされていた保険情報を証明する書類について、令和8年4月1日付の国要綱改正により、原則として個人番号（以下MNと呼ぶ。）連携を用いた情報照会により取得することとされたところ、先天性血液凝固因子障害の受給者について難病等医療費助成システムに情報照会を行う機能がないことから、一件ずつMNを照会用のシステムに入力し照会する必要が生じ、事務負担が増加するとともに、転記誤り等によるMNの誤紐づけのリスクが存在している。

（２）事業内容

先行してMN連携機能を実装した指定難病・小児慢性特定疾病と同様にMN連携機能による情報照会を行えるように、難病等医療費助成システムのシステム改修を実施する。

システム改修後は、照会情報の入力・出力にかかる作業が不要となり事務負担が軽減されるとともに、転記誤りによるMN誤紐づけが防止されることが期待される。

(3) 県負担・補助率の考え方

県10/10

(4) 類似事業の有無

令和5年度のシステム再構築時に、指定難病・小児慢性特定疾病にかかるMN連携機能を実装済み。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	2,013	難病等医療費助成システム改修業務の委託
合計	2,013	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

なし

(2) 国・他県の状況

先天性血液凝固因子障害治療研究事業は令和8年4月1日からMN連携が可能となったことから、令和8年6月時点において実装済みの都道府県はない。

(3) 後年度の財政負担

単年度のシステム改修事業であり、後年度の財政負担はない。

(4) 事業主体及びその妥当性

県

事業評価調書（県単独補助金除く）

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和8年度中に、MN連携を用いた情報照会が可能となるよう難病医療費等助成システムの改修を完了させる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

システム改修業務を数値化できないため。

（これまでの取組内容と成果）

令和5年度	
令和6年度	指標① 目標： 実績： 達成率： %
令和7年度	指標① 目標： 実績： 達成率： %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	国の要綱改正に伴う改修事業であり、対応が必要である。
3	
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 先天性血液凝固因子障害治療研究事業の円滑な実施のため、システムの運用保守を継続して実施する必要がある。
--

(次年度の方角性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 単年度の改修であり、次年度以降に継続する事業ではない。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	